

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：34416

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2011

課題番号：22650048

研究課題名（和文）

患者・家族が抱える医薬情報ニーズの体系化とMIPSの開発に関する研究

研究課題名（英文）

Study of the Medical Information Needs of the Patient and their family and the MIPS (Medical Information Pathfinder-Sheet) Development

研究代表者

渡辺 智山 (WATANABE TOSHITAKA)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：30309207

研究成果の概要（和文）：

患者およびその家族が必要とする情報が簡易に探し出せるツールとして、図書館情報学分野で注目されるパスファインダーの思想に基づいた新たなツールを思案するため、医療従事者に対するインタビュー調査・アンケート調査を継続しながら、これまでの医療情報提供に関わる現況と問題点について、情報探索過程に関連した研究文献を整理し、Medical Information Pathfinder-Sheet (MIPS) のためのモデルを作成した。

研究成果の概要（英文）：

The important thing about this study is modeling of the Medical Information Pathfinder-Sheet for the patients and their families who access easily to the medical information they need. To achieve this studies object, I organized into the basic research literature related to the information search process in the field of library and information science, and interviewed health care workers, carried out a questionnaire survey to develop a new tool based on the idea of pathfinder of the library, then presented a model of Medical Information Pathfinder-Sheet.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	300,000	0	300,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	800,000	150,000	950,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：情報学・図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：情報探索過程・医薬情報・情報ニーズ

1. 研究開始当初の背景

医療に対する「信頼と不信」、治療における「満足感と後悔」、医療従事者に対する「尊敬と不尊」など、「医」に対するプラス感情とマイナス感情のいずれの文脈にも共通する要素に、医学・医療・健康・薬に関連した

情報（以下、メディカル情報）がある。日常的に利用頻度の高いマスメディアが配信する情報とは異なり、病気等に見舞われた際に初めて必要とする特別な情報ではあるが、生涯にわたって誰もが「不必要としない」情報である。

患者およびその家族がメディカル情報を必要とする時、医療従事者から情報を得ることがあったとしても、メディカル情報の専門性のために、改めて探索しなおさなければならず、時には自らが試行錯誤しなければならない状況に置かれることが多い。

2. 研究の目的

2010（平成 22）年、厚生労働省委託事業（がん対策評価・分析作業）として、「あなたの思いを聞かせてください！ がん対策に関するアンケート調査」が実施された（調査対象：入院・通院患者 2273 人）。

この調査は、「がん対策推進基本計画中間報告書」の施策について、がん医療の受け手であるがん患者や家族からの声を集め、真に必要とされるがん対策に関するニーズを明確化するとともに、がん対策推進基本計画が提示した施策の適切性等を分析するために行われた調査である。

調査結果については、「放射線療法及び化学療法の推進並びに医療従事者の育成」「緩和ケア」「在宅医療」「がん医療に関する相談支援及び情報提供」「がん登録」「がんの早期発見」の 6 分野それぞれに「がん対策評価・分析委員会」が設置されてまとめられたが、現在もなお、患者およびその家族が自ら求める情報が適切に入手できていないという事実がある、どのような医療従事者がいるのか、どの治療法を選択すれば良いのか、自分に適した薬には何があるのか、疑問や問題が生じた際にどこに相談すればよいかなど、必要とされる情報がまだ「身近」ではない点が再確認されている。

本研究は、情報社会における個々人の情報リテラシーを高める一つ的手段として、国民共通の主要な疾患である「がん」のメディカル情報を手がかりに、ユニバーサル仕様の情報探索ツール開発について考察するものである。

3. 研究の方法

『厚生労働白書』『がん対策推進基本計画』『i-Japan 戦略 2015』および関連する文献の精査およびレビューと共に、医療従事者に対する面接調査等を実施する。

【医療従事者への調査項目】

- ①最新の医療・医薬情報を入手する頻度を教えてください。（ 回/日・週・月 ）
- ②最新の医療・医薬情報を入手するために利用する情報源の種類を選んでください。
 1. 関連専門雑誌/専門書籍
 2. インターネット
 3. データベース（Web 版も含む）

4. 学会/研究会
5. 院内研修会
6. 医薬会社等 MR による説明
7. コメディカル同士による口コミ
8. その他（ ）

- ③最新の医療・医薬情報を入手するための最も活用頻度の高い情報源の種類 3 つと、その具体的な情報源の名称（雑誌タイトル、システム名、サービス名等）を教えてください。
- ④コメディカル同士の情報交換（コミュニケーション）についてお聞きします。定期的な学会/研究会以外で、最新の情報を入手するために、他の病院・研究機関等に所属するコメディカルとの情報交換はされていますか？
- ⑤Electronic Health Records（EHR）の状況についてお聞かせください。お勤めの医療機関で EHR システムを導入していますか？
- ⑥最新の情報を入手するために、気をつけていることがありましたら教えてください。
- ⑦医療従事者の立場から、『闘病記』に関する事項についてお聞かせください。『闘病記』は不確実な情報も記述されていることもあります。医療・医薬情報を入手するための情報源として、患者およびその家族等に活用してもらいたいと思いませんか？
- ⑧患者及び家族自らが情報を探す際、どのような点に気をつけるべきだと思いませんか？

4. 研究成果

メディカル情報を入手するための既存プロダクトは、概して (1) 『医療情報収集ガイド』に見られるようなディレクトリ型、(2) 『癌になったと言われたら』に見られるような時系列リスト型、(3) 「健康棚プロジェクト/闘病記プロジェクト」に見られるようなセクション設置型、(4) 専門機関によるインターネット提供型に分けられるが、情報通信技術の進歩により、多くの「モノ・コト」が容易にデジタル化できるようになり、新たな形式の情報提供が可能となった点が重要である（例えば、患者およびその家族の「体験」をインタビュー動画や音声で配信している情報源である。DIPEx×JAPAN が運営する「健康と病いの語りデータベース」は注目すべき情報システムである）。

また、個人レベルであれ、組織レベルであれ、「本当に必要とする情報」にアクセスするためには、探索初期に入手した情報源を読み込みながら、そこから得られる別の手がかりを特定し、新たな情報源を別の探索ツールで探さなければならないという事実を再確認しながら、図書館情報学の文脈で考えられてきた「パスファインダー」の思想（演繹的視点でなく帰納的視点を踏まえた情報探索

広がり診断（局所型・全身型）という、医師によるがん診断プロセスの中で、どのような「根拠」を持って医師は判断するか、それに関連する情報はどのように生じるかなどの、プロセスを前提とした視点である。医療情報は、生涯に1度以上は誰でもが必要とする情報であるが故、その提供のあり方については、絶えざる検証が必要である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

①渡邊智山、医療情報探索ツールに関する研究：Medical Information Pathfinder Sheet、関西大学文学論集、査読無、第62巻、第1号、2012、（印刷中）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡辺 智山 (WATANABE TOSHITAKA)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：30309207

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：